

必要なプロセスと事例を知って あなたも地域づくりに参画を！

地域づくりハンドブック「始める！ 続ける！ 地域づくり」では、「地域づくり活動に関わりたい」「自分たちで地域課題解決や地域の活性化に取り組む団体を立ち上げたい」「団体を運営する中で課題に直面している」という皆さんのために、団体設立や運営にあたって必要ないくつかのプロセスを分かりやすく解説しています。

また、地域づくりに取り組む団体の活動強化や人材育成を伴走支援する熊本県の「地域課題解決プロデューサー人材活用事業」で、令和2年度から4年度までに支援を行った9団体の取り組み事例も紹介します。

「地域づくりと言っても何から始めていいのか分からない」という方々に役立つ情報が詰まった一冊を、ぜひ参考にしてみてください。

地域づくりハンドブック

始める！ 続ける！ 地域づくり

Contents

P2	総論「変化する『地域づくり』」	P12	事例紹介 01 一般社団法人のあそび labo
P3	地域づくりを始めるにあたって	P13	事例紹介 02 菊鹿さきもり隊
P4	地域づくり団体の新設－その1－目標設定	P14	事例紹介 03 熊本地震・平田震災遺構保存会
P5	地域づくり団体の新設－その2－合意形成	P15	事例紹介 04 走潟マルメロ会
P6	地域づくり団体の新設－その3－賛同者集め	P16	事例紹介 05 NPO 法人網田倶楽部
P7	地域づくり団体の新設－その4－組織化・規約策定	P17	事例紹介 06 一般社団法人パレット
P8	地域づくり団体の新設－その5－資金調達	P18	事例紹介 07 美里 COcCARU (こっかる)
P9-10	活動発展のイメージ	P19	事例紹介 08 坂より上自治会
P11～	県内の地域づくり団体・事例紹介	P20	事例紹介 09 一般社団法人らぞ LABO
		P21-22	地域づくりに役立つ情報ページ／地域づくりの窓口

変化する「地域づくり」

地域づくり活動は“楽しむ”ことから 取り組みの一つ一つが“渦”を生み出す

「地域づくりとは？」と問われると、一言ではなかなか説明しづらいものですし、人によっても考え方がさまざまです。その一方で、多くの人と一緒に取り組まなければならないのが地域づくりです。また、人手の確保や意識の醸成の難しさなど、地域づくりをめぐる課題は大きく、深く、その解決には小手先の対応ではどうにもならないところまで来てしまっているように思います。

私たちは今、地域づくりの大きな構造変化の真ただ中にいます。確かに人口減少と高齢化の進行とともに地域づくりの担い手となり得る人の数は減ったかもしれませんが、生き活きとした取り組みの小さな渦が各地で起こっています。このハンドブックで紹介している地域団体でも、日頃からの地域におけるつながりの中で、楽しみながら取り組みを行っています。まさに、そうした活動の一つ一つが地域づくりの“渦”になっています。

さらに、地域外を含むさまざまな人とのネットワークによって渦と渦の刺激のし合いが生まれ、さらに新たな渦が生まれていきます。それによってたくさんの小さな渦で地域全体が満たされていき、結果的に豊かな地域、住んで良かったと思える地域になっていく、そんな地域づくりの新たな姿が見えてきた気がします。

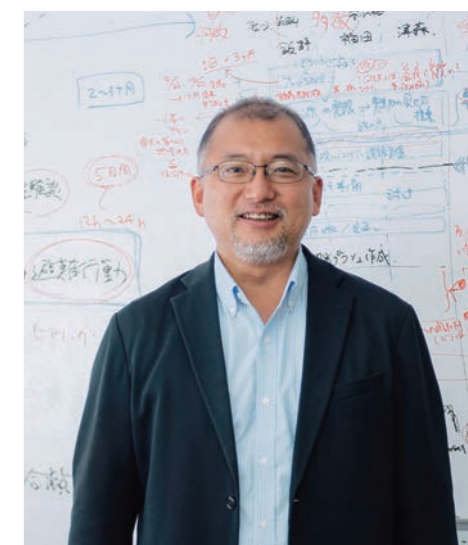
一方で、地域にとって大切なことであっても、課題が大きすぎると解決は難しく、義務感だけでは多くの人の共感は得られません。結局、やっている人自身が楽しそうにしているところに人は集まりますし、楽しく活動するためには、その活動に意義と意味、そしてつながりが必要です。また、小さくてもよいので成功体験が飛躍のきっかけにもなりますし、小さくはじめて大きく育てることがポイントだと思います。

このハンドブックで紹介している地域づくり団体の組織・つながりづくりや、県内各団体の事例を参考に、皆さんの地域での取り組みも地域づくりの小さな渦の一つとして、より充実した活動としていきつけにできればと思います。

地域課題解決プロデューサー人材活用事業
総合プロデューサー（令和3・4年度）

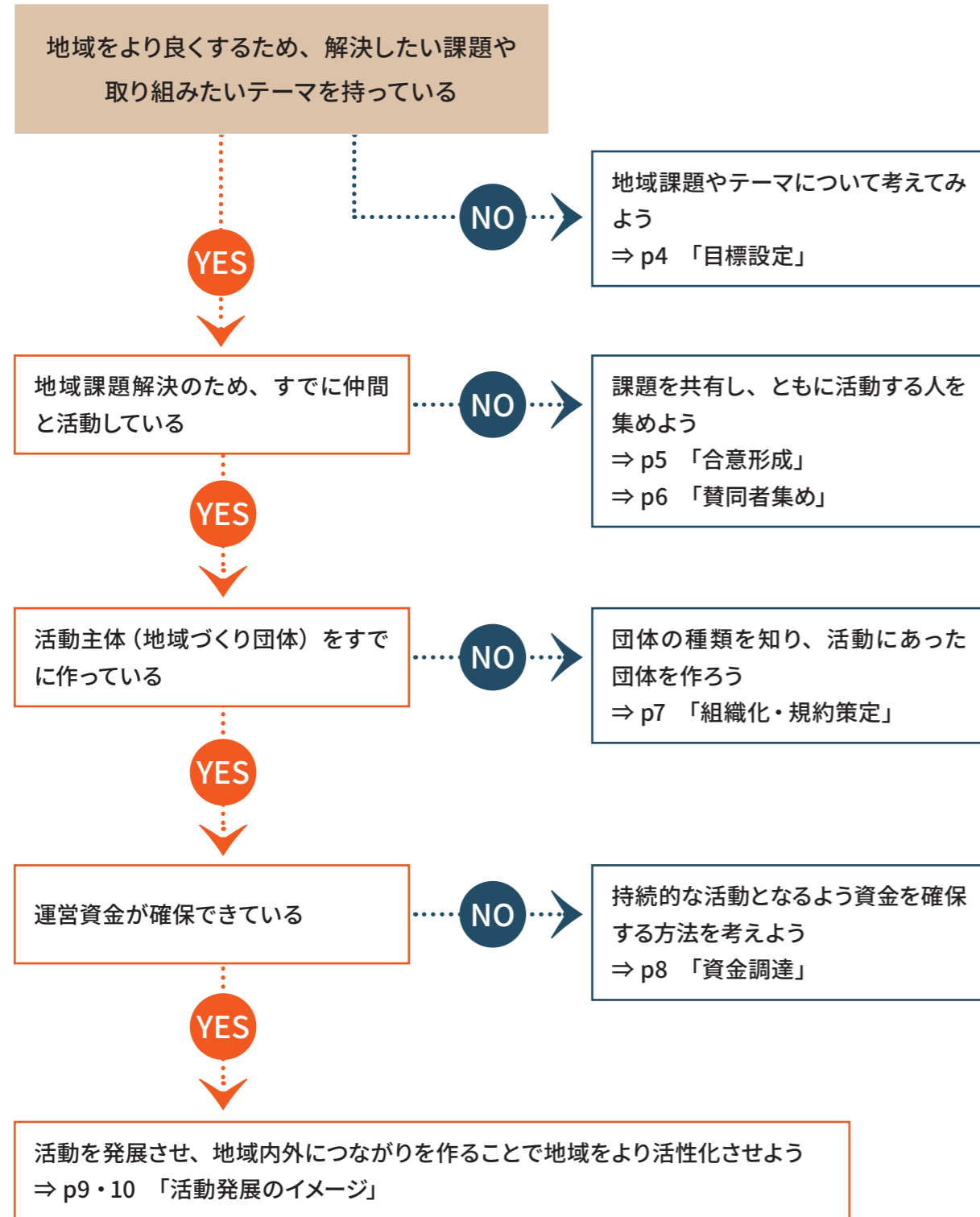
熊本県立大学環境共生学部教授
地域・研究連携センター長

柴田 祐 氏



地域づくりを始めるにあたって

皆さんが「地域づくり活動を始めたい」と思っても、「どんな課題に取り組むのか?」「すでに一緒に取り組み仲間がいるのか?」など、状況や段階によって、“やるべきこと”が異なります。下のチャートを参考に、自分または自分たちの団体が、今どの部分に力を入れるべきかを確認してみましょう。



地域づくり団体の新設 — その1 —

目標設定

自分たちの手で新たに地域づくり団体を設立しようとする時、まず大切なのは「何をしたいのか」「それによって、地域やそこに住む人々にどうなってほしいのか」など、目標を設定することです。そのために押さえておきたいポイントや、目標を明確化するための手法を紹介します。

「自分たちのやりたいこと(目標)」を言語化しよう!

目標設定は団体設立のスタート地点

地域づくり団体を新設しようとする際、その“スタート地点”となるのは団体としての目標設定です。明確な目標設定のないまま団体を立ち上げてしまうと、メンバーそれぞれの考えや目指したいゴールが共有されず、団体としての方向性が定まりにくくなります。また、地域住民など外部の人たちからの賛同や共感を得ることが難しくなり、協力や支援を受けにくくなる場合があります。



そうならないために、活動のテーマややり方、自分たちの活動によって何をどう変えていきたいのかなど、目標を言語化しておくことが重要です。その際、下のような3つのポイントを押さえておきましょう。

「目標設定」の際に押さえておきたい3つのポイント

- 1 解決したい地域や社会の課題を見つける
- 2 自分たちや地域の強み(財産)・弱み(課題)を整理する
- 3 ①・②を組み合わせる言語化する

「目標」を言語化するのに大切なのは?

メンバーで話し合い、3つのポイントに沿って自分たちの取り組むべき課題や強み、具体的な活動案を洗い出しながら目標設定を行っていきます。特に、「当事者/受益者(誰が・何が)」「目指す状態(どうなってほしい・どうしたい)」「活動エリア(どこで)」を盛り込みましょう。そのうえでこれらをまとめた一文「ビジョン」を作成します。ビジョンは、伝わりやすさを考慮し、シンプルで明確な文章にすることを意識しましょう。

言語化・ビジョン作成の例

当事者(受益者)	= 市民および周辺自治体の住民(特に若い世代)に
目指す状態	= 地域の魅力が共有され、まちに賑わいのある状態
活動エリア	= 市内各地(駅前・山間地・海沿いなど、魅力を引き出した地域全般)
活動内容	= 地域の魅力を発見し、イベントとして域内外に発信。運営を通して地域にお金が落ちる仕組みを創出する
ビジョン(上記のまとめ)	= 地域の魅力を再発見し、その発信活動を通して地域に関心を持つ人を増やし、賑わいのあるまちづくりに貢献する

地域づくり団体の新設 – その 2 –

合意形成

地域づくり団体のスタートに当たって重要なポイントの一つが、メンバーや支援者の間の合意形成です。活動内容や目指す方向などを“見える化”し、メンバー間の目線合わせをしましょう。

ビジョンの“見える化”で常に目線合わせを

設立時だけでなく、活動中の方向性の再確認にも役立つ

団体として活動する場合、そこにはさまざまな考えを持った人たちが集まります。スムーズな団体運営を行っていくため、団体内でどのように合意を形成し、方向性を共有していくかが重要です。

合意形成の際に有効なのが、前頁「-その1-目標設定」で定めたビジョン、課題や目標、強みや弱みから導いた活動の

方向性などを要約してシートに記入し、共有しておくことです。さまざまな意見を集約しながら決めた内容をシートとして可視化しておけば、「団体がどのような方向に向かおうとしているか」が明確になります。また、活動開始後に意見が分かれた時にも、シートを見返すことで方向性の再確認を図ることができます。作り上げたビジョンは、団体の内外を問わず、さまざまな機会に共有することが大切です。メンバーや支援者、協力者などが、「自分ごと」と受け止められるよう意識的に発信していきましょう。

“見える化”シートを作る～合意形成のポイント～

- 活動の目的・目標を明確化し、いつでも確認できる状態にする
- 関係者が「自分ごと」と受け止められるよう意識的に共有する

“見える”化シートの例

●組織の目標		
活動エリア	当事者（受益者）	目指す状態
市内各地（駅前・山間地・海沿いなど、魅力を引き出した地域全般）	市民および周辺自治体の住民（特に若い世代）に	地域の魅力が共有され、まちに賑わいのある状態となるために
活動内容		
地域の魅力を発見し、イベントとして域内外に発信。運営を通して地域にお金が落ちる仕組みを創出する活動を行う		
●活動の強み・弱み		
	内容	意識する方向性
地域	強み	魅力ある景観、農産物
	弱み	高齢化
団体	強み	地域住民主体での活動
	弱み	メンバーが少ない
●財源		
・自主事業（町歩き・山歩きイベント） ・助成金（中山間地振興）		
●組織		
・NPO法人		

状況に合わせ、目標を変化・進化させていく

当事者（受益者）の状態や周辺環境の変化によって、ビジョンも変化・進化させていく必要があります。「作って終わり」ではなく、定期的に見直す機会を設け、目線合わせを行いましょう。

地域づくり団体の新設 – その 3 –

賛同者集め

持続可能な活動を目指す上で、メンバーを増やすことはもちろん、外部からのさまざまな支援や協力を得ることも不可欠です。そのためには、団体の目指す方向性や活動内容に賛同してくれる“ファン”を増やすことが重要。また、「-その1-目標設定」で定めたビジョンを折に触れて外部にも発信し、団体の活動や考え方について、周囲に共感・賛同してもらえる機会を作りましょう。

賛同者集めの第一歩は、「知ってもらう」ことから

立場や関わり方もさまざまな「賛同者」

「賛同者」とひと口に言っても、その立場や関わり方はさまざまです。まずは、直接的に団体の活動に参加してくれるメンバーや会員。次に、ボランティアや寄付を通じて関わってくれる地域住民や地元企業。さらに、同じような趣

旨や目的で活動している他団体や、地域づくり団体の支援を行っている行政機関や社会福祉協議会などです。

そうしたさまざまな人や団体等に、あなたの団体の活動に賛同してもらうには、まず活動やそれにかかる思いを知ってもらうことが重要です。そのためのいくつかの手法を紹介します。

“つながり”を増やすことで活動の幅も広がる！



●イベント等で認知度向上と参画の機会を

周囲に活動を知ってもらうためには、「話題（話のネタ）」を作りましょう。講演会やセミナー、マルシェ、ワークショップなど、活動に沿ったイベントを実施し、団体の存在や活動をアピールしましょう。その際、運営の協力を取り付けることで、より深く関わってもらえる賛同者を獲得することもできます。

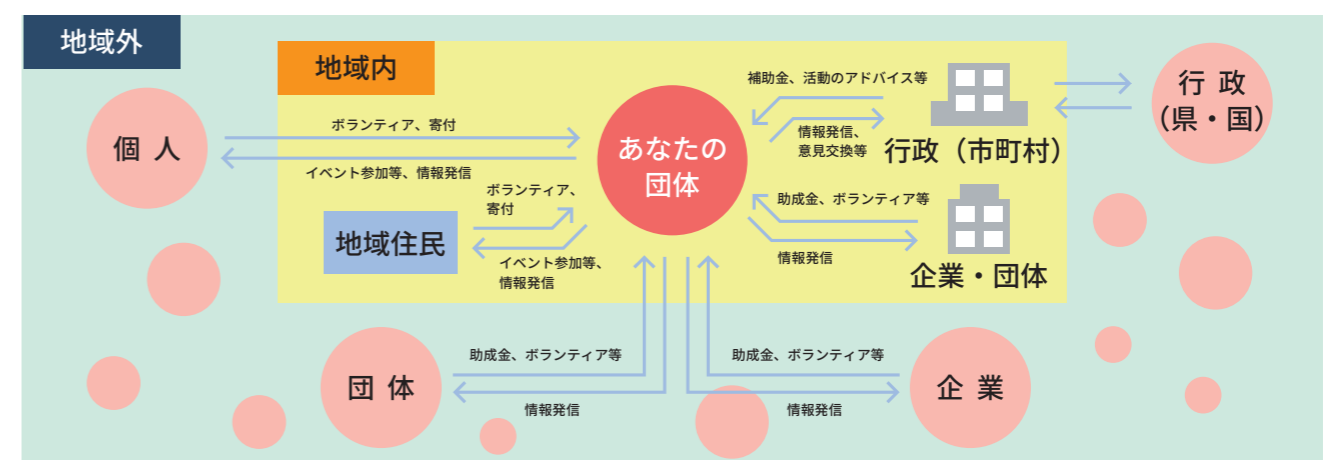
●地域行事や他団体の催しに参加する

日頃から、活動の拠点となる地域での催しに関心を持ち、情報収集をしましょう。地域づくりに関するイベントや祭りなどの地域行事、活動内容に近い団体の催しに積極的に参加するなど、他の活動に「巻き込まれる」ことで、自団体の活動やメンバーの顔を周囲に覚えてもらいましょう。

●SNS等を活用して情報発信を行う

地域の枠を超えてより多くの賛同者を得ることができる上、つながりを持続していくのにも有効なのが「SNS(Facebook、Twitter、LINEなど)」です。団体の活動をPRする情報発信手段としてだけでなく、連絡ツールとしても使えるので、積極的に活用してみましょう。また、他団体の活動を知るツールとしても役立ちます。

賛同者集めのイメージ



地域づくり団体の新設 — その 4 —

組織化・規約策定

設立する団体の形態は、目指す方向性や活動範囲によってさまざまな選択肢があります。「どのような形が一番活動しやすいか」を意識して形態を決めるとともに、運営実務をスムーズに進めるための規約などを定めていきましょう。

自分たちの団体に合った形態や規約をしっかりと見定めよう

必要に応じて法人格の取得も

地域づくり団体の主な形態として、法人格を持つ特定非営利活動法人（NPO 法人）、一般社団法人、法人格を持たない任意団体などがあります。必ずしも法人格は必要ではありませんが、例えば、不動産などの資産を保有したり、行政や企業と契約行為を行ったりする場合、法人格を持っていることでスムーズに進む場合があります。それぞれの特徴を理解し、自分たちの団体に合った形態を見極めましょう。

また、どんな形態の組織で活動するにしても、団体としての決まり事＝規約を作っておくことが欠かせません。特に、NPO 法人や一般社団法人を設立する場合には、団体の定款が必要です。規約は、日頃の運営や意思決定を行うため、また組織の透明性を確保するためにも重要です。法人格のない任意団体として活動する場合であっても、できる限り作っておくようにしましょう。

法人格によって何が違うの？

自分たちの活動や目標に合わせて、
どんな組織にするかを決めましょう！

組織形態	特定非営利活動法人 (NPO 法人)	一般社団法人	任意団体
根拠法	特定非営利活動促進法 (NPO 法)	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律	なし
性格	非営利	非営利	営利/非営利
目的事業	特定非営利活動 (NPO 法別表の 20 分野) を主目的	目的や事業に制約はなく、公益事業、収益事業、共益事業等可能	任意
設立方法	所轄庁の設立認証後に登記して設立	公証人役場での定款 (非営利性が徹底した定款) 認証後に登記して設立 (準則主義)	任意
設立要件	社員 10 人以上 (常時)	社員 2 人以上	任意
税制等	収益事業課税	収益事業課税	収益事業課税
法定設立費用	無料	11 万円	無料
その他	毎事業年度の事業報告書等提出等、NPO 法に基づく所轄庁 (都道府県知事又は指定都市の長) の監督を受ける		

地域づくり団体の新設 — その 5 —

資金調達

地域づくり団体を運営していく上で、活動やビジョンと並んで欠かせないのが財源です。営利を求めない活動であっても、発生するさまざまな費用をメンバーが負担する形では、持続的な運営や後継者の確保が難しくなる場合があります。財源の種類や確保の方法を知っておきましょう。

団体の理想を実現するために欠かせない“財源”の確保

財政基盤安定のためには自主財源が重要

地域づくり団体の財源としては、①会費・寄付、②助成金・補助金、③自主財源 (事業収入等) などがあります。「①会費・寄付」は、団体の理念や活動に共感する人たちからの支援的な財源です。「②助成金・補助金」は、企業や民間の助成団体から提供される資金 (助成金等) や行政から提供される資金 (補助金等) のことで、団体の取り組みに対する支援や地域課題解決のために活動する団体の育成などを目的としたものです。

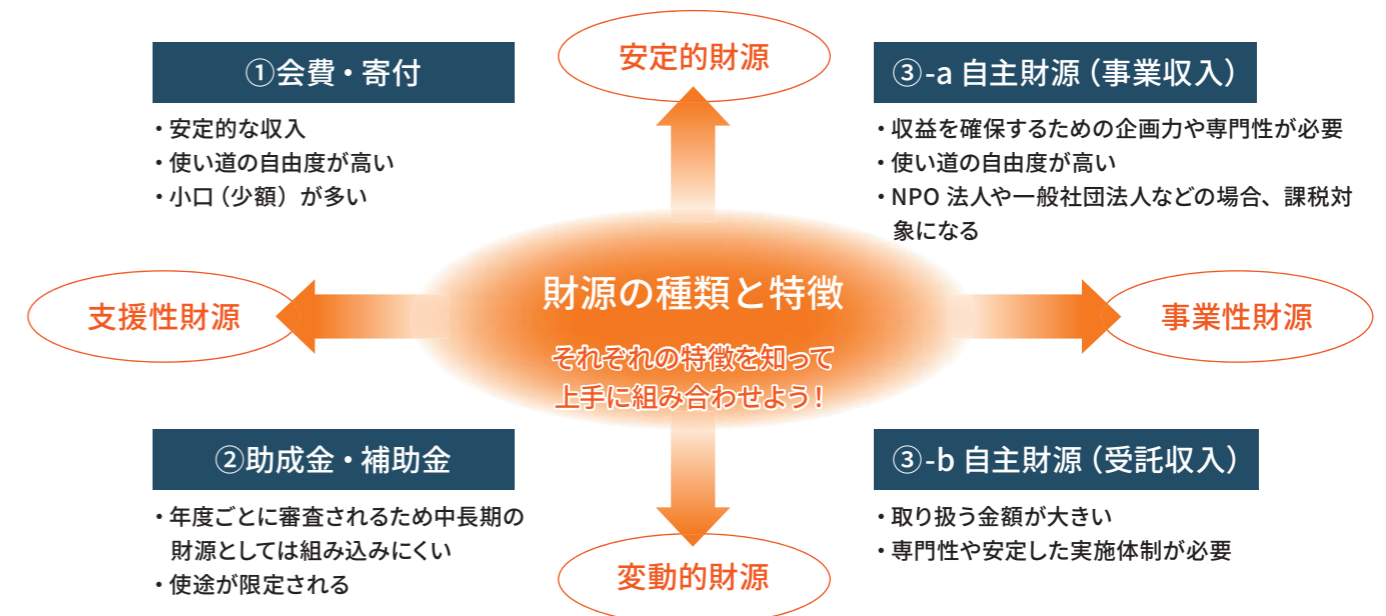
これに対して「③自主財源」は、団体自らサービスの提供やイベント、物品販売などを行って収益を得る事業収入 (③-a) や、公共施設の指定管理業務を受託することなどで得られる受託収入 (③-b) のことを指します。また、最近では広く一般に資金を募るクラウドファンディング※も、自主財源の一つといえます。自主財源の獲得には多くの手法がありますが、団体の活動や目的に沿った形で無理なく獲得できることが理想です。

団体の活動を持続的に進めていくためには、いずれかに偏ることなく、バランス良く組み合わせることで財源を確保することが重要です。特に自主財源の確保は、自立した活動継続のために欠かせない要素なので、団体内でしっかりと話し合しましょう。

check!

※ 支援者に広く資金協力を呼び掛ける「クラウドファンディング」

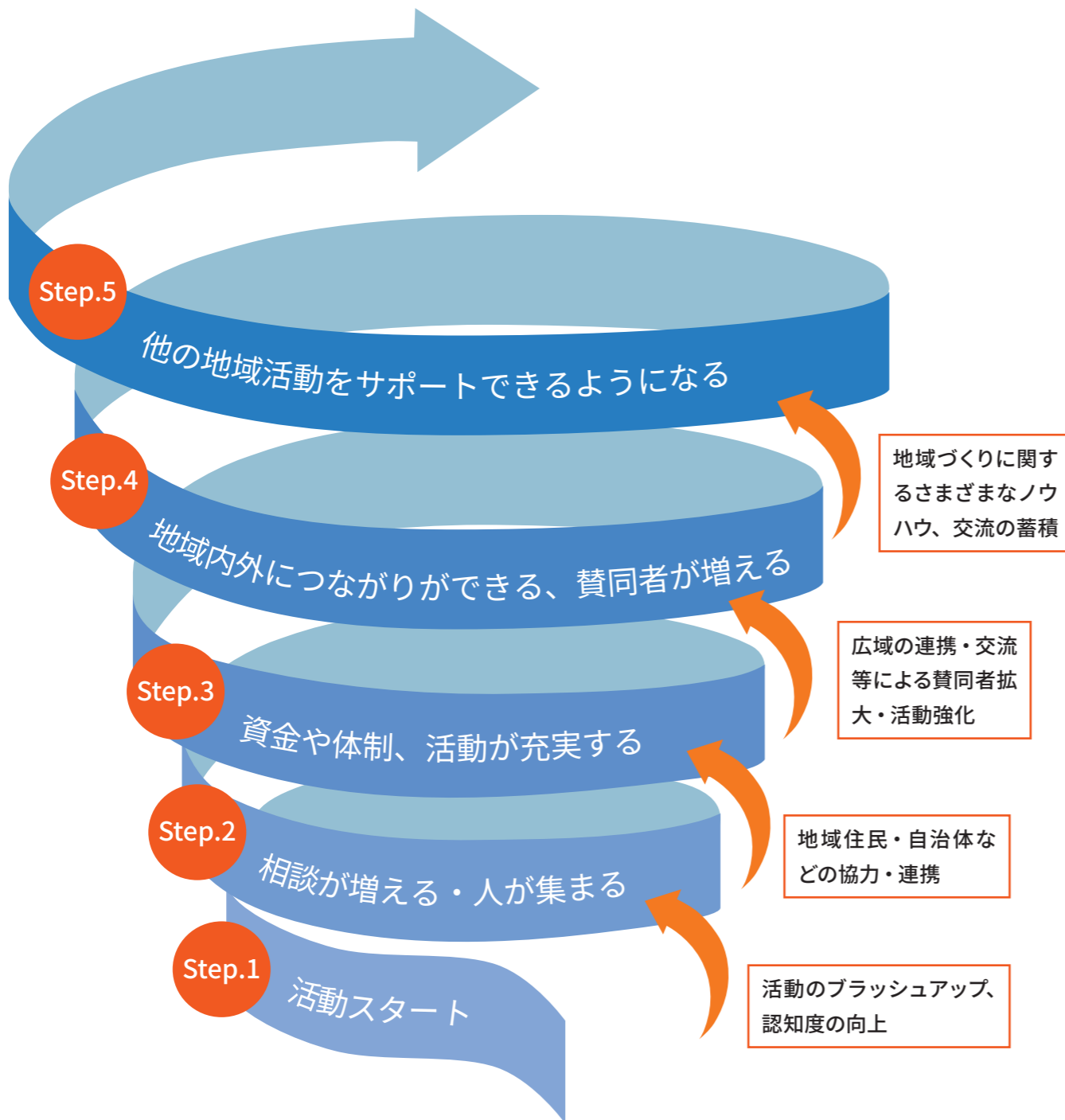
近年、新たな資金調達の仕組みとして注目されている「クラウドファンディング」。「群衆 (クラウド)」と「資金調達 (ファンディング)」を組み合わせた造語で、「インターネットを介して不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達すること」を指します。新しいサービスを提供したい人や社会課題を解決したい人などが資金の提供を呼びかけ、それに共感した人たちが資金面で支援する仕組みです。市場の拡大とともにその形式も多様化し、現在は「寄付型」、「購入型」、「融資型」、「株式型」、「ファンド型」、「ふるさと納税型」などがあります。



活動発展のイメージ

自分たちが起こした“渦”を少しずつ大きく！

地域づくり団体を立ち上げるということは、地域の中に小さな“渦”を起こすことです。そして活動の発展は、その渦を少しずつ大きくしていくことで達成されます。どのような段階を経て渦が広がっていくのか？ それをイメージしたり、分かりやすく可視化しておく、自分たちの団体の現在地や、そこから発展させるために必要なことが見えてきます。



Step.5

他地域活動をサポートできるようになる

それまでの活動や他団体とのつながりなどを通じて地域づくりに関するさまざまなノウハウが団体内に蓄積されると、これから新たに立ち上げる団体や活動が停滞している団体など、他地域活動のサポートやアドバイスができるようになり、地域づくりの輪がさらに広がります。

Step.4

地域内外につながりができる、賛同者が増える

活動エリアの拡大やイベント開催などを通じて地域の内外で団体の認知度が高まると、同じような課題に取り組む団体との地域の枠を超えた連携や交流が生まれます。そうしたつながりがより広く、深くなるほど、新たな賛同者も増え、さらに団体の活動や体制が強化されます。

Step.3

資金や体制、活動が充実する

規模や活動範囲が広がると、徐々に団体としての信頼度が増し、地域住民はもちろん、団体が拠点を置く自治体などの協力や連携が得られやすくなります。加えて、メンバーの増加とともにイベント開催等の自主事業なども行えるようになり、補助金や助成金だけに頼らない活動資金の確保も可能になります。

Step.2

相談が増える・人が集まる

団体の存在や活動内容が浸透してくると、地域住民や他団体などからの相談事が増えます。また、趣旨に賛同し、「自分も参加したい」「メンバーに加わりたい」という人も現れ、団体の規模や活動範囲が少しずつ広がっていきます。

Step.1

活動スタート

団体としての活動をスタートさせたら、同時に実際にやってみて見えてきた課題や改善点を洗い出し、活動のブラッシュアップを行っていきましょう。さらに、より多くの人に活動を知ってもらうための情報発信なども積極的に行い、認知度向上に努めましょう。

自分たちらしく！ 楽しみながら！

県内の地域づくり団体・事例紹介

熊本県内でも、地域の活性化や課題解決のために数多くの団体が、さまざまな形で活動しています。ここでは、県の「地域課題解決プロデューサー人材活用事業」の支援を受けた9団体の事例を紹介します。

各団体の活動内容のほか、「地域や団体でどのような課題を抱えていたか」「それをどのように解決したのか（しているのか）」「今後の活動の方向性」などをまとめています。取り組む課題や手法はさまざまですが、どの団体にも共通しているのは、「自分たちらしく、楽しみながら」活動していること。ぜひ皆さんも参考にしてください。

01



一般社団法人のあそび labo
(荒尾市)

02



菊鹿さきもり隊
(山鹿市)

03



熊本地震・平田震災遺構保存会
(益城町)

04



走潟マルメロ会
(宇土市)

05



NPO 法人網田倶楽部
(宇土市)

06



一般社団法人パレット
(甲佐町)

07



美里 COcCARU (こっかる)
(美里町)

08



坂より上自治会
(八代市)

09



一般社団法人らぞ LABO
(人吉市)

※事例紹介のページでは、各団体が取り組んだ課題や活動の内容を分かりやすく「# (ハッシュタグ)」で表しています。皆さんの活動に合ったものを見つけてください。

一般社団法人のあそび labo 01

- # 駅前地域活性化
- # 新事業への取り組み
- # 資金調達 (自主事業)
- # 域内での関係深化

■ 団体概要

組織名 一般社団法人のあそび labo
所在地 荒尾市万田 1560-1
代表 中村光成
会員数 7名
URL <https://noasobilodge.com/>
設立年月 2020年4月

■ 主な活動内容

代表を務める中村光成さんの呼びかけで、「野遊び (アウトドア活動) を軸にした地域づくり」を目的に設立。荒尾駅前のビルを簡易宿泊所やカフェ、コワーキングスペースを併設する複合施設としてリノベーションした「のあそび lodge」の運営をはじめ、アウトドアイベントの開催や荒尾駅前エリアを中心とした市街地エリアの活性化に取り組んでいます。



荒尾駅前の活性化を起爆剤に “のあそび” で地域を元気に！

荒尾市の賑わいがグリーンランド周辺の緑ヶ丘エリアに移るのに伴い、駅前の商店街は衰退が続いており、駅前の広場や駐車場もあまり活用されていません。また、近隣の玉田市や大牟田市に比べ、街としての知名度・認知度が低いことも課題です。団体としては、「のあそび lodge」常駐スタッフの確保を含めた組織の強化や、持続的な活動のための資金調達が課題となっていました。



DIY でリノベーションした駅前ビル

地域および 団体の課題

課題解決の 流れ

「のあそび lodge」内の簡易宿泊所等の運営による活動資金創出を目指しましたが、当初は全く手探りの状態でした。そこで、県内ホテルや簡易宿泊所から運営ノウハウを学び、ブラッシュアップを重ねることで少しずつ運営が安定していきました。また、駅前広場等を活用したイベント運営によって実績を積んだ結果、地域住民や行政から駅前活性化に関する相談が寄せられるようになり、活動の幅が広がりました。



今後の活動について ①簡易宿泊所の運営安定化 ②自主イベントの運営体制の見直し ③野遊び活動の普及・拡大 を当面の目標にしています。活動を通して地域住民や行政と連携する機会が増えており、今後はこれを更に発展させ、県内のアウトドア・ネットワークの構築や「あらお海陽スマートタウン」内アウトドア施設への提言なども行っていききたいと思います。



一般社団法人のあそび labo
代表 中村光成さん



祭りの企画・運営主体の活動から 地域課題に取り組む団体に

地域および 団体の課題

高齢化や人口減少に伴い、農業をはじめとする地域産業の衰退が深刻で、担い手不足、耕作放棄地の増加に悩まされています。地域の誇りである棚田や米作りを次世代へ伝えていくために、棚田の保全や担い手の確保、移住定住のきっかけとなる交流人口の拡大を目指す中で、どういった形で取り組むべきか、団体としてしっかりとした議論と目線あわせが出来ておらず、模索が続いていました。

課題解決の 流れ

新たな活動について議論する中で、「地域の財産（強み）」「地域の課題」「さきもり隊として実現したい目標」「その手法」を洗い出し、「目標」と「手法」を掛け合わせる形で①棚田の保全 ②地域の魅力を伝えるアクティビティの開発、運営 ③地域住民の巻き込み という3つの活動方針をまとめました。これを基に、短期・中長期に取り組むべきことを具体的に落とし込み、棚田所有者向けアンケートや棚田を楽しむ山歩きルートの作成等を行いました。

今後の活動について

新たに取り組む「棚田の保全」「地域の魅力を伝えるアクティビティの開発・運営」を行っていく上では、法人化も含めた組織の再編成が必要です。新たな活動を通して、持続的な活動のための収益創出と、地域の活性化に取り組むたいと考えています。



菊鹿さきもり隊
隊長 田河正行さん

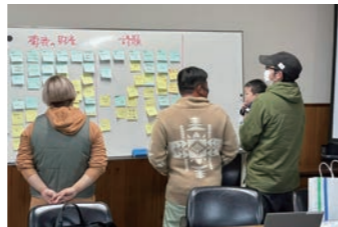
- # 中山間地域活性化
- # 新事業への取り組み
- # 目標設定
- # 合意形成

■団体概要

組織名 菊鹿さきもり隊
所在地 山鹿市菊鹿町下内田 713
代表 田河正行
会員数 66名
設立年月 1995年4月

■主な活動内容

地域おこしの一環として各地区より選出された“隊員”と、商工会青年部や市役所若手職員などで構成。1996年から地元・菊鹿町の子どものフェスティバルや夏まつり（現きくかまつり）の企画・運営を行っています。2019年からは、日本の棚田百選にも選ばれている「番所の棚田」の草刈り作業に参加するなど、新たな活動を模索しています。



地域の強み・課題、団体の目標、手法の洗い出し



番所の棚田に近い廃校をイベントの拠点として活用できるか検討

- # 地域資源（震災遺構）を利用した活性化
- # 既存事業のブラッシュアップ
- # 新事業への取り組み
- # 資金調達（自主事業）

■団体概要

組織名 熊本地震・平田震災遺構保存会
所在地 上益城郡益城町平田 1318
代表 濱田雅之
会員数 11名
設立年月 2022年7月

■主な活動内容

地域に残る熊本地震の遺構を当時のまま見学できるように、周辺の草刈りや見学路の清掃などの保存活動に取り組んでいます。また、見学に訪れる研究者や大学生、一般市民、小学生などに対して、それぞれに合わせた説明や資料を用意したり、現地のガイド活動も行っています。さらに、教育機関とも連携し、地域の小学校の生徒たちに震災の記憶を継承していきたいと考えています。



地域に残る震災遺構を保存・発信し、 次世代へ継承

地域および 団体の課題

熊本地震からの復旧が進むにつれ、震災の記憶が薄れてきています。こうした中、震災の教訓をいかに残し、後世に伝えていくかは被災地として重要な課題です。団体としては、これまで実施してきたガイドが学術的な内容を中心としていたため、より広い層に関心を持ってもらえるような方策の検討が課題でした。また、遺構保全のための資金も不足しており、持続的な運営のための活動資金創出も急務でした。

課題解決の 流れ

地域住民に関心を持ってもらうために、地元教育機関に働きかけ、小学校の見学授業として震災遺構のガイドを実施。これまで学術的な表現が多かった部分を見直し、子ども向けのガイド手法について検討しました。また、域内外の人に対するアプローチとして、震災遺構と地域の魅力発信を組み合わせたフットパスイベントを企画・運営しました。参加料による資金創出にもつながるよう、事業をブラッシュアップしていきます。

今後の活動について

複数のガイドが必要になる小学生向け見学授業を実施する中で、ガイド数の不足を実感しました。関心のある方にガイド研修を行い、ガイドを確保していきたいと考えています。また、ホームページやリーフレットなどを活用して情報発信にも努め、新たな見学者の掘り起こしにも取り組みつつ、継続して資金創出ができるようイベントの完成度を高めていきたいと思っています。



現在も残る震災の痕跡



断層により損傷した桜の木をガイド



熊本地震・平田震災遺構保存会
会長 濱田雅之さん

- #地域資源（マルメロ）を利用した活性化
- #資金調達（自主事業）
- #域内での関係深化
- #団体の活力向上



■団体概要

組織名 走潟マルメロ会
所在地 宇土市走潟町 822 (走潟公民館)
代表 村田一信
会員数 26名
設立年月 2014年1月

■主な活動内容

江戸時代から宇土市走潟地区で栽培されていた果実「マルメロ」を原料に作られていた熊本（肥後）藩の幕府献上菓子「かせいた」。戦後途絶えていたマルメロ栽培の復活と「かせいた」の復刻、新商品の開発・販売などに取り組む一方、地域住民向けの花見会、収穫祭の開催や地元小学校でのマルメロジャム作り指導などを通して、地域全体の巻き込みも図っています。

マルメロ栽培を復活させ、まちづくりの核として活用

地域および団体の課題

施設園芸農業が盛んな宇土市走潟町では、少子高齢化が進行しており、徐々に町の活気が失われつつあります。団体としては、復刻したマルメロや「かせいた」を具体的にどう活かしていくべきか、メンバーの中で目標共有が十分でなく、また、「かせいた」などのマルメロ製品を収益化して持続的な団体運営を実現するための方策についても課題がありました。

課題解決の流れ

マルメロの栽培や「かせいた」の試作に協力している方、子どもたちなど、地域住民を巻き込みながら活動の幅を広げるための方策を議論し、地元小学校でのマルメロジャム手作りイベントや地域老人会への訪問などを実施しました。また、製品としての「かせいた」のブラッシュアップおよびPRイベントのノウハウ獲得のため、原料保存や製造における品質管理について研究したほか、熊本市内で「かせいた」の試食・即売イベントを実施。製品販売に手ごたえを感じ、モチベーションアップにつながりました。

今後の活動について

「かせいた」の品質・生産量向上と新製品開発に取り組み、製品販売を通して地域（原料生産者、加工者など）にも還元できるよう模索します。加えて、地元小学校でのイベントやマルメロの花見会など、域内での活動にも継続的に取り組み、地域の巻き込み、地域全体の活性化につなげることができればと考えています。



復刻された「かせいた」



再び栽培されるようになったマルメロ



走潟マルメロ会
会長 村田一信さん

- #駅を核とした地域活性化
- #新事業への取り組み
- #資金調達（自主事業・受託事業）
- #域内での関係深化



■団体概要

組織名 NPO 法人網田倶楽部
所在地 宇土市下網田町 2097-2
代表 益田信明
会員数 25名
設立年月 2004年8月

■主な活動内容

過疎化などが進む地域の現状に危機感を抱いた当時30～40代の住民が中心となって、「行政に何を求めるかではなく、まず自分たちで何ができるか」を理念に発足しました。「網田駅を核としたまちづくり活動」をテーマに、網田駅舎の指定管理事業、駅舎内のカフェ「網田レトロ館」の運営、駅を利用する小学生の見守りなどに取り組んでいます。

レトロな駅舎を中心とした活性化に加え、新たな課題にも挑戦

地域および団体の課題

網田地区は少子高齢化に伴う過疎化が顕著で、人口は1960年代の半以下（約3000人）になっており、買い物難民の増加、医師不足、空き家の増加などの課題が現れています。団体としては、メンバーの高齢化によって活動に新鮮味が失われつつあり、次世代のまちづくりの担い手育成が急務となっていました。



「網田レトロ館」が提供するパンケーキ

課題解決の流れ

網田地区をロケ地として行われた映画撮影をきっかけとした地域の魅力再発見の一環として、駅カフェのブラッシュアップに取り組みました。また、多様化する地域課題にどう向き合うべきか、メンバー以外の地域住民にも参加を呼び掛けて議論する中で、「移住者受け入れのための住環境整備」というテーマが浮上。地域内の空き家の視察、持ち主や移住希望者のニーズ調査などを行いました。



地域内の空き家の視察

今後の活動について

移住・定住促進とそのための住環境整備という新たなテーマが見つかり、またその活動を担う若手グループも出てきました。今後は網田倶楽部自体の活動に加え、地域の次代を担う若手の支援・サポートという役割も果たし、広く地域づくりに貢献したいと思います。



NPO 法人網田倶楽部
会長 益田信明さん

移住定住の促進
情報発信
資金調達(自主事業・受託事業)
域内での関係深化

■ 団体概要

組織名 一般社団法人パレット
所在地 上益城郡甲佐町横田 605-1
代表 大滝祐輔
会員数 スタッフ：正社員 8 名 / アルバイト 18 名
URL <https://palette-kosa.com/>
設立年月 2018 年 4 月

■ 主な活動内容

地元の若手商工業者や移住者などを中心に設立。「交流人口や滞在人口を増やし、それをきっかけに定住人口増加につなげていく」との考えの下、甲佐町役場などとも連携を図りながら、レストラン事業をはじめ、特産品となる商品開発、サイクリングコースの構築、「こうさてん CINEMA」「こうさてんマルシェ」等のイベント開催など、さまざまな取り組みを行っています。



レストラン「トラットリア サンヴィート」



町営キャンプ場の指定管理者を受託



一般社団法人パレット
代表 大滝祐輔さん

今後の活動について メンバー間では事業の理念の共有が図られていますが、アルバイトやパートなどのスタッフにまではまだ浸透していない点があります。そうした意識の共有を含め、中心事業の一つであるレストラン事業の体制強化や総務・経理専任スタッフの配置等、中長期的な事業継続のための環境整備を進める必要性を感じています。

地域資源(里山)を利用した活性化
目標設定
新事業への取り組み
交流人口創出

■ 団体概要

組織名 美里 COcCARU (こっかる)
所在地 下益城郡美里町三和 420
(美里町役場砥用庁舎内)
代表 園田薫
会員数 6 人
設立年月 2021 年 4 月

■ 主な活動内容

設立準備会を経て、2021 年 4 月に正式に活動開始。前身となる地元の山菜を活用した地域活性化プロジェクトを進化させ、「美里の豊かな山里を守り、活かし、未来につなぐ」をコンセプトに山菜ファーム、焚き火サイト、山里トレッキングなど、美里町をまるごとフィールドにした体験型観光を展開しています



豊かな山里を“資源”にした ソーシャルビジネスを展開

美里町では、中山間地域共通の課題ともいえる高齢化や若者の流出、それに伴う人口減少という課題を抱えています。また、当初の「山菜を活用した地域活性化」に取り組む中で、山林の荒廃という課題もクローズアップされ、そうした多様な課題を見据えた活動の必要性を感じ、「美里 COcCARU(こっかる)」の設立に至りました。

活動の方向性を議論する中で、「美里の豊かな山里を守り、活かし、未来につなぐ」というコンセプトを定めました。これを基に、美里町を楽しむコンテンツとして 3 つのメニュー(山菜ファーム、体験型観光、山里トレッキング)を策定。これをブラッシュアップしていき、交流人口の拡大を目指しました。

今後の活動について 美里の今ある地域資源を活用した 3 つのメニューを着実に育て、活動の維持・拡大を目指しています。今後は地域内外で人をつなげるプラットフォームとして発展し、持続的な活動となるよう取り組んでいきます。



山林の保全活動



山里トレッキング



美里 COcCARU
代表 園田薫さん

中山間地域活性化
移住定住の促進
資金調達（自主事業）
団体の活力向上

■ 団体概要

組織名 坂より上自治会
所在地 八代市東陽町河俣坂より上地区内
代表 区長/上原昭郎、会計/橋永高徳
会員数 正会員 40名、賛助会員 13名
設立年月 —

■ 主な活動内容

坂より上地区は、八代市の東部に位置しています。現在、自治会では、公民館の有償貸し出しやヤマメ養殖・販売を通じた収益創出のほか、賛助会員制度による地域応援団の編成、年数回のイベントを活用した交流人口の増加に取り組んでいます。



地区を応援してくれる仲間、ファンを増やして住民の活力に

地域および団体の課題

昭和初期までは林業を中心として栄えてきましたが、木材需要の減少と価格下落にともない集落の人口も減少。過疎化・高齢化が進み、限界集落となっています。そのため、地区活動の拠点である公民館などの共有施設の維持管理が難しい状況です。維持管理に必要な人手、資金ともに不足しており、それをどのように持続的に確保するかが大きな課題となっていました。

課題解決の流れ

「正会員」「賛助会員」でなる現状の会員組織に、「サポーター（仮）」を新たに加え、坂より上と関わりを持ってもらえる人をより広く受け入れる仕組みを検討しました。各住民がスマートフォンで撮影した地域の写真をクラウドサービス「Google フォト」で共有し、会員組織へ情報発信する素材として蓄積していく仕組みもスタート。「どんどや」などの地域行事を域外からも参加できるイベントに作り替える中で、住民や賛助会員のモチベーションが高まり、積極的に参加する中心メンバーが育ちました。

今後の活動について イベント開催などで盛り上がった集落の“元気力”の維持と地域一帯の環境の有効利用、さらにそれをどう次世代に引き継いでいくかが、今後の課題です。そのために、お試し移住の受け入れや耕作放棄地の再活用などの環境整備、イベントの周知広報、賛助会員・サポーター（仮）の確保などを通じて、坂より上地区を本当に応援してくれる仲間を増やしていきたいと思ひます。



中に囲炉裏を備え、キャンプ用に貸し出している公民館



坂より上自治会
橋永高徳さん

地域資源（観光資源）を利用した活性化
情報発信
資金調達（補助金）
域内での関係深化

■ 団体概要

組織名 一般社団法人らぞ LABO
所在地 人吉市中青井町 306-6
代表 北貴之
会員数 8名
設立年月 2020年10月

■ 主な活動内容

人吉球磨地方に甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨からの復興を目的に設立。お笑い芸人・ラランドとコラボしたYouTubeチャンネルを通じた人吉球磨のプロモーションに加え、球磨川を活用したアクティビティの造成、企業や学生を対象にしたSDGs研修会・勉強会の実施など、持続可能な「観光地域づくり」の実現を目指しています。



地域の若手商工業者が立ち上がり 人吉球磨の魅力を発信

地域および団体の課題

令和2年7月豪雨によって、道路・鉄道などのインフラやホテル等の観光施設は深刻な被害を受け、地域の観光産業が危機的状況に陥りました。多くの人に人吉球磨の魅力を知らせ、訪れてもらうために何が出来るかを考える中で、観光業や飲食業を営む地域の若手有志で「らぞ LABO」を設立。団体としては、プロモーションやイベント運営の手法、資金の確保が課題でした。

課題解決の流れ

活動の具体化を模索する中で、国の補助事業を活用することに決め、動画配信やPRイベントを実施する事業が採択されました。人気お笑い芸人とコラボした動画配信では、新たな層へのPRにつながったと手ごたえを感じるとともに、将来的な収益化を目指し、コンテンツのブラッシュアップや収益化の手法の研究に取り組みました。また、JR博多駅で実施した人吉球磨のPRイベントでは、地元事業者ブースを出展してもらうことで地域の巻き込みにもつながりました。



人気お笑い芸人とコラボした情報発信



JR博多駅での人吉球磨観光プロモーションイベント



一般社団法人らぞ LABO
代表 北貴之さん

今後の活動について 補助金だけに頼らず自走していくためには、活動の収益化が重要と感じており、そのために① YouTubeを活用した収益化 ② 人吉球磨地域の課題解決に資する「企業版ふるさと納税」の活用を目指しています。また、地元人吉高校において SNSを活用した観光情報発信の支援を行うなど、地域との連携も深まっています。今後も域内を巻き込みながら、関東や関西でも人吉球磨のPRを行い、観光復興に貢献したいと思ひます。

地域づくりに役立つ情報ページ

「地域の課題解決に取り組みたい」「自分たちで地域団体を立ち上げたい」など、皆さんがさまざまな形で地域づくり活動に関わりたいと思ったときに役立つ情報が手に入るウェブサイトなどを紹介します。

国

○総務省
地域力の創造・地方の再生



○総務省
地域人材ネット（地域力創造アドバイザー）



○総務省
ふるさとづくり大賞



○国土交通省
地方振興 活力と魅力のある地域づくり



○国土交通省
地域づくり表彰



○内閣府
NPO 法人ポータルサイト



県

○熊本県 地域振興課



○熊本県 むらづくり課



その他

○一般財団法人地域活性化センター



○火の国未来づくりネットワーク



○くまもと地域おこし協力隊ネットワーク



○くまもと県民交流館 パレア



○NHK 地域づくりアーカイブス



○地域づくりプラス



地域づくりの窓口

県	担当課	電話	自治体名	担当課	電話	
県央	県央広域本部	地域振興課	096-333-2180	熊本市	地域活動推進課	096-328-2036
	宇城地域振興局	総務振興課	0964-32-2113	宇土市	まちづくり推進課	0964-22-1111
				宇城市	地域振興課	0964-32-1906
				美里町	美しい里創生課	0964-47-1111
	上益城地域振興局	総務振興課	096-282-3044	御船町	企画財政課	096-282-1263
				嘉島町	企画情報課	096-237-2641
				益城町	企画財政課	096-286-3223
				甲佐町	地域振興課	096-234-1154
				山都町	企画政策課	0967-72-1214
	県北	県北広域本部	振興課	0968-25-4121	菊池市	地域振興課
				合志市	企画課	096-248-1813
				大津町	総合政策課	096-293-3118
				菊陽町	総務課	096-232-2111
玉名地域振興局		総務振興課	0968-74-2113	荒尾市	くらしいきいき課	0968-57-7163
				玉名市	地域振興課	0968-75-1421
				玉東町	企画財政課	0968-85-3188
				和水町	まちづくり課	0968-86-5721
				南関町	まちづくり課	0968-57-8501
				長洲町	まちづくり課	0968-78-3239
鹿本地域振興局		総務振興課	0968-44-2131	山鹿市	地域生活課	0968-43-1114
阿蘇地域振興局		総務振興課	0967-22-3903	阿蘇市	まちづくり課	0967-22-3318
				南小国町	まちづくり課	0967-42-1171
				小国町	政策課	0967-46-2118
				産山村	企画振興課	0967-25-2211
				高森町	政策推進課	0967-62-2913
				西原村	企画商工課	096-279-3112
				南阿蘇村	政策企画課	0967-67-2230
県南広域本部		振興課	0965-33-3149	八代市	企画政策課	0965-33-4104
芦北地域振興局	総務振興課	0966-82-4445	氷川町	宮原振興局 地域振興課	0965-62-2311	
			水俣市	地域振興課	0966-61-1606	
			芦北町	企画財政課	0966-82-2511	
			津奈木町	政策企画課	0966-78-3114	
球磨地域振興局	総務振興課	0966-24-4113	人吉市	地域コミュニティ課	0966-22-2111	
			錦町	企画観光課	0966-38-4419	
			多良木町	企画観光課	0966-42-1257	
			湯前町	企画観光課	0966-43-4111	
			水上村	地方創生推進課	0966-44-0312	
			相良村	総務課	0966-35-0211	
			五木村	ダム対策課	0966-37-2212	
			山江村	企画調整課	0966-23-3114	
			球磨村	復興推進課	0966-32-1114	
			あさぎり町	企画政策課	0966-45-7211	
天草	天草広域本部	総務振興課	0969-22-4214	天草市	まちづくり支援課	0969-32-6661
				上天草市	企画政策課	0964-26-5511
				苓北町	企画政策課	0969-35-3334



地域課題解決プロデューサー人材活用事業

地域づくり+
プラス

地域づくりプラス

検索

